

# マレー・ムスリマの進路形成とジェンダー

鴨 川 明 子

## はじめに

本稿の目的は、イスラーム教を国教に定めた国家（以下「イスラーム国家」）であり、多民族（複合）国家であるマレーシアを事例とし、青年後期のイスラーム女性（ムスリマ）の進路形成過程における高等教育の意味を、性役割観を手がかりとして明らかにすることである。

長らくイスラーム国家では、性役割観が根強く残り、「よい母親たれ」とするいわゆるよい母親業（good mothering）の神話が、教育普及を妨げると考えられてきた [Elliott and Kelly 1980]。マレーシア研究者もまた、性役割に基づく教育観を女性が持つことを「女性らしい」分野に女性が集中するようになった原因とみなしてきた [Ariffin 1992, Ahmad 1993, Ahmad 1998]。ところが、イラン [Mehran 2003, 桜井 2002] やインドネシア [服部 2001] など、アジア地域の他のイスラーム国家で、性役割は遵守されているにもかかわらず多くのムスリマが教育や職業機会を得てきている現状が明らかになると、教育機会拡大の論議も一様ではなくなってきた。

このような新しい論議を踏まえ、本稿では、ムスリマが有する性役割観が、必ずしも進路選択の機会の多様性を阻むものではないと仮定し、多様な進路形成の過程と構造の一端を明らかにしたい。なお、本稿はペラ州立宗教学校と国民学校においてマレー人ムスリマに対して実施した面接調査の質的分析に基づく。

## 1. マレーシアの女性の性役割観と教育

### (1) アリフィン・ジャマイラ（1995）の調査

#### ①調査の概要

国際的にフェミニズムやジェンダー論がさかんになるにつれて、マレーシアでも女性やジェンダーに焦点を当てた調査研究が増えてきた。そしてそれらの中から、現代女性の性役割観や、男性が女性に望む役割観などを実証的に明らかにしようとする研究が出てきた。たとえば、「開発と女性」研究の第一人者であるアリフィン・ジャマイラ (Ariffin, Jamilah) が、「マレーシア女性にふさわしい役割に対するジェンダー観（態度）—半島マレーシアにおける調査結果より—」（1995）と題する大規模な調査を実施したのがその一

つである<sup>1</sup>。調査は、「マレーシア女性への開発過程の効果と、近代化に対する展望と開発における役割展望」という調査の一部をなす。その主要な目的は、公的・私的領域における女性の役割とその変化を明らかにすることである(1994年～1995年実施)。2,957人へのぼる調査対象は、半島マレーシアにおける25歳から55歳までの既婚の成人男女で、マレー人2,291人、華人504人、インド人147人、その他15人から構成される<sup>2</sup>。アリフィン<sup>3</sup>は、マレーシアの女性が、家庭における役割を受け入れれば、依然として伝統的立場に立っていると見え、開発の進行の度合いや経済成長のレベルにかかわらず、文化的には遅れていると判断するという仮説を立てた [Ariffin 1995]。

本稿では、問題設定と関わりの深い、マレーシア女性の役割と教育をカバーする設問(全設問20問中4問)を中心に上げる。なお、回答者は、全ての設問に対して「全く反対」「反対」「いくらか (somewhat) 賛成」「賛成」「とても賛成」という5つの選択肢から1つを選ぶことができ、前者2つが「反対派」、後者3つが「賛成派」に分類され分析された。

## ②調査の結果

第1に、「娘よりも息子の方を大学に行くよう励ますべきである」という質問に対して、男女差よりもエスニック集団別に差が大きい。マレー人男性は58.4%のみが反対したのに対して、華人は79.4%、インド人79.9%、その他87.5%が反対しており、マレー人と非マレー人との差が大きい。サンプル数の少な

いその他を除くと、特に賛成派が多いのはマレー人男性(41.6%)であり、それにインド人女性(39.0%)が迫る。華人は男女とも最も反対派の割合が高く、インド人は男女でばらつきがある。

第2に、「女の子が人文科学系の教科を好み、男の子が技術系の教科を好むのは、生物学的な理由による」という設問に対して、男性の方に「賛成する」割合が若干高い(男性70.4,

表1 女性はいい妻、よい母になるために大学教育を受けるべきである。(単位%)

性別		反対派	賛成派	合計
男性		41.7	58.3	911
女性		47.9	52.1	2034
エスニシティ別		反対派	賛成派	合計
マレー人	男性	36.5	63.5	657
	女性	46.0	54.0	1626
華人	男性	53.8	46.2	199
	女性	57.5	42.5	301
インド人	男性	59.6	40.4	47
	女性	57.0	43.0	100
その他	男性	50.5	50.0	8
	女性	14.5	85.7	7

出所: Ariffin Jamilah, (1995) 「マレーシア女性にふさわしい役割に対するジェンダー観(態度) — 半島マレーシアにおける調査結果より —」調査報告書。

女性65.7%)。ところが、マレー人男性に占める賛成派の割合 (72.3%) とマレー人女性に占める賛成派 (65.9%) の割合にはひらきがある。また、女性の間では、エスニック集団別に割合の差が認められず、概ね65%の女性が、生物学的性差に基づく専攻分野の差異を肯定している。

第3に、「女性はよい妻、よい母になるために大学教育を受けるべきである」と、性役割と教育との関係を問う設問もある (表1)。この設問には全体的に賛成派が多く、特に男性の方に賛成派が多い (男性58.3%, 女性

表2 社会発展のために男女の役割は分けられるとよい。男性は家の外で働き、女性は家庭でよい妻よい母としての役割に専心すべきである (単位 %)

性別		反対派	賛成派	合計
男性		45.6	54.4	910
女性		51.5	48.5	2036
エスニシティ別		反対派	賛成派	合計
マレー人	男性	42.3	57.7	656
	女性	50.9	49.1	1628
華人	男性	53.8	46.2	199
	女性	53.9	46.1	301
インド人	男性	46.8	53.2	47
	女性	49.0	51.1	100
その他	男性	87.5	12.5	8
	女性	85.7	14.3	7

出所：Ariffin (1995)。

52.1%)。しかし、エスニック集団別に見ると、マレー人男性が63.5%も賛成したのに対して、華人男性 (46.2%) やインド人男性 (40.4%) の賛成する割合は過半数に達していない。賛成派が過半数を上回っているのは、マレー人男女とその他の女性のみである。

第4に、「社会発展のために男女の役割は分けられるとよい。男性は家の外で働き、女性は家庭でよい妻よい母としての役割に専心すべきである」という性別役割分業に関わる質問に対しては、概して男性に賛成派の割合が高い (54.4%) (表2)。その一方、女性は賛成派 (48.5%) と反対派 (51.5%) の割合が拮抗する。特に、マレー人男性が性役割に賛成する割合が高く (57.7%), インド人男性 (53.2%), インド人女性 (51.1%) が続く。また、エスニック集団内の男女差が大きいのはマレー人で、男性の賛成派が57.7%であるのに対して、女性の賛成派は49.1%と過半数を若干下回る。

## (2) 結果の分析

約3,000人を対象とする本調査は、マレーシア人の性役割観やジェンダー観を大規模な量的調査によって明らかにしようとした本格的な調査研究である。従来女性やジェンダーに留意したマレーシアの研究は、女性のみを対象とした記述的な研究が多かったのに対して、実証的なデータをもとに性別やエスニシティ、年齢などによる相違に配慮し分析した点が特徴的である。このような方法的特徴によって、女性の地位や役割に対して最も「伝統的な」考えを持つのは、マレー人男性であること、それに対して、マレー人女性は先行

研究で伝えられてきたほど、一様に「伝統的」役割観に賛成するわけではないことなど、多くの有意義な結果が明らかにされた [Ariffin 1995, 87-99]。とりわけ第1と第3の設問から、マレー人男性は、マレー人女性や他のエスニック集団の男女に比べて、女性は「伝統的」な役割を重視し、男性に優先的に教育機会やリーダーとなる機会を供与するべきであると考える傾向が強いと判明した。その一方、マレー人女性は、マレー人男性と同様の傾向を示しながらも、女性が様々な機会を持つことを容認する割合も高かった。

さて、本調査は幾らかの課題も残した。たとえば、同じエスニシティでも階層 (居住地、収入、職業、教育などを含む) の違いによって、考え方や態度が異なる可能性にまで分析が及ばなかったことや、調査対象が学齢期を過ぎた成人のみに限定されたこと、女性の地位や役割に対する考え方のみを質問項目としたことなどである。しかも、調査の早い段階に構築された仮説が、性役割を「伝統的」役割と規定した上で、社会変動は伝統的役割観を克服することに寄与するとみなした。さらにより「近代的な」回答が増加していくことに一定の価値を付与したことが、本調査が持つ限界の1つであると言える。換言すれば、アリフィンが別稿 (1992, 1994) で、イスラーム伝来以前には、「伝統的」役割観や態度は定着していなかったと指摘していたにもかかわらず、本調査では、イスラーム伝来以降の性役割に対する考えを「伝統的」役割観と分類したことは矛盾するであろう。

本調査の結果が持つ意義を踏まえつつ、上述の限界を克服するために、本稿では、調査

対象の年齢を次のように絞りたい<sup>3</sup>。スエット・リン・ポン (1995) は、マレーシアにおける、エスニック集団内部とエスニック集団間の教育達成度に見られる格差を調べる論文で、マレーシアでは「初等・中等教育段階がほとんど普遍化されつつあるため、社会移動を促進するために中等後教育が徐々に重要になっている」点を指摘した<sup>4</sup>。これは、マレーシアで社会移動を促し、エスニック集団間とエスニック集団内部の格差を解消するためには、より格差の大きい中等後教育に着目する必要があるだけでなく、後期中等教育から中等後教育への接続を扱う研究が待たれることも示唆する。そこで実地調査では、後期中等教育から中等後教育への進学と、その後の高等教育への進学も含めた進路形成を対象とする。

## 2. 実地調査の概要と結果

### (1) 調査の概要

これまで筆者は進路指導カウンセラーに対する予備調査 (2001年9月) とパイロットテスト (2002年7月下旬~8月上旬)、質問紙による第1次調査 (同8月中旬~下旬) を実施してきた。一連の調査結果から、後期中等学校の生徒が進路を選択する際、エスニック集団別と性別の進路分化が存在することを確認した<sup>5</sup>。だが、進路分化を生じさせる要因と、進路分化を生徒自身がどのように受け入れたり葛藤したりしているかという自己同定の問題などは、未だ十分に把握できていない。そのため制限回答法による質問紙調査の方法上の限界を乗り越え、生徒や家族に対して個別に面接することによって、進路形成の途上で分化が

起こる過程と構造を明らかにする。これらを明らかにすることは、生徒の性役割観と高等教育観や卒業後の生涯設計との関係を検討することにつながると筆者は考える。なお、後期中等学校生徒の性役割観と進路形成に関する第2次調査の対象は、第1次調査の対象297人から有意抽出した生徒44人である(半指示的面接法)。補足的に44人中4人の生徒の家庭を訪問し、家族も交えて集団で面接(非指示的面接法: non-directive interview)した(2002年8月22日(木)~9月6日(金)実施)。本稿では公立中等学校の内、共学の多民族校で、農村部の生徒が通う<sup>マリスム ナワール</sup>Malim Nawar国民中等学校(Sekolah Menengah Kebangsaan: SMK)、都市にあるマレー人のみの全寮制女子校、<sup>タッヤ</sup>Taayah州立中等宗教学校(Sekolah Menengah Agama: SMA)の2校におけるマレー人女子生徒の回答を中心に記述し説明する<sup>6</sup>。

## (2) 調査の結果

### ①高等教育進学の意味

生徒は高等教育や就職の意味を、自らのライフ・サイクルの中でどのように捉えているだろうか。その問いを明らかにするために、フォーム・ファイブあるいはシックス修了後に希望する進路と性役割観について4タイプに分けて質問した。すなわち、「よい父親や夫/よい母親や妻になるために、フォーム・ファイブあるいはシックスを卒業後、高等教育を受ける/就職する必要があるかどうか」という質問群である。これら一連の質問には、「男らしさ」や「女らしさ」などのジェンダー規範と高等教育アスピレーションとの間に何らかの関係性があるのではないかという仮

説を検証する意図がある<sup>7</sup>。第1次調査の結果から、マレー人女子生徒の意見として、男子・女子共に家庭での役割を遂行するために、高等教育を大変重要と考えることが分かってきた。そして、第2次調査の結果から、マレー人女子生徒が、男性に高等教育が重要と考える理由は、「家庭の長」としての役割を果たすためであり、父親として模範になるためであることが分かった(括弧内順に、学校名、通し番号、クラス名、エスニシティと性別、親の職業と教育歴)。

家の主(ketua rumah)として、物事の価値判断が的確でなければならないので、男性が高等教育を受ける必要がある。高等教育を受けないと職業機会が狭まってしまう、あまりいい職業に就くことができないと思う(マリスム・ナワール No.54 文系1クラス マレー人女子、父 公務員 前期中等教育 母 主婦 非教育)。

男性にとって、「家庭の長」としての役割を担うために、高等教育も職業も共に重要である一方、女性にとっては、子どもを賢く育てることが最も重要な役割である。そのため、高等教育に進んだ後に、職業に就くかどうかは特に問わないという回答が大変多かった。

男性には高等教育も職業も大事である。家庭の長としての役割があるからだ。子どもの模範例となるためにも。母親にも同様に高等教育は大事だ。なぜなら、母親が最も子どもたちに近い存在だから。でも働いたら子どものよい例になることができない(タッヤ No.97 宗教クラス マレー人女子、父 Pembantu Tadbir 大学学位 母 経理 後期中等教育)。

男性が高等教育で学び続けると、(就職した際)給料がよくなるから大賛成。女性は子どもを育てなければいけないので、賢い必要がある。だから、女性が高等教育を受けることにも賛成。でも必ずしも女性が給料を得る必要はない(タ

ッヤ No.49 会計クラス マレー人女子, 父 退職 後期中等教育 母 宗教教師 後期中等教育)。

男性にも女性にも高等教育が大事と考えるのはマレー人女子に共通する。だが、女性が高等教育を受けると家庭での役割が疎かになってしまいがちであるため、あまり高い教育を受けない方がいいという声も聞くことができた。

男性が、家庭の長として、高等教育を受けることにとても賛成する。子どもは父親を見るから、子どもの教育にとっても大事。女性が高等教育を受けることにも賛成だが、あまり高学歴過ぎると、母親としての責任を果たすことができない。母親が役割を十分に果たすことができないと、いろいろと問題がおきる。主婦としての役割も仕事も、宗教では大事だと教えられている。お父さんは、会計の教師になるといっている。お母さんは、教師は休みが多いので好きみたいだ (タッヤ No.45 会計クラス マレー人女子, 父 教師 大学学位 (学部) 母教師 ディプロマ)。

イスラーム宗教学校タッヤの女子生徒の中に、家庭における役割を果たすため、男子が高等教育を受けることを望む生徒が多かった。それは、男性の場合には、「家庭の長」としてあるいは子どもの模範として、高等教育を受け職業的な地位や給料が高くなることが望ましいと考えられるためであろう。それに対して、女性が高等教育を受ける目的は、妻として夫を良く助け、母として賢く子どもを育てることにあるため、職業的な成功や経済的な稼ぎ手になるか否かは問われない。女性が職業機会を得るとしても、経済的に余裕がない場合に家計の補助的役割を担うに過ぎない。また、高等教育を受けることを概ね賛

成しながらも、夫よりも教育レベルが高くなることには躊躇する意見もある。

とりわけ、タッヤの生徒は学業成績が高いため、高等教育を受けることによって、職業機会が拡大し、地位や給与がよりよくなる可能性が高い。それゆえ、夫の経済力が十分であれば、職業的に成功することを望んではいないのである。このようなタッヤの女子生徒に見られる特徴は、中間層が増加し女性が主婦になる傾向が強まりつつある (女性の主婦化) というマレーシアの現代的側面の一端であるとも言える。それだけでなく、女子の進路に対する意見は多様である。男性と女性の役割の違いから、高等教育に進学する意味が異なると答える生徒がいる一方で、女性が高等教育に進学すると職業機会が拡大すると考える生徒もいる。

女性が高等教育に進学することに賛成なのは、職業を選ぶことができるから (タッヤ No.90 宗教クラス マレー人女子, 父 Penyeia Felcra 非記入, 母 非記入 後期中等教育)。

タッヤの生徒に対して、マリム・ナワールのマレー人女子生徒の出身階層は低い<sup>8</sup>。そのため、彼女たちにとって卒業した後に職業を得ることが、切迫した問題となる。

高等教育を受けなくても職業的地位が高ければ、よい夫や父親として (の役割が) 十分に務まると思うので、仕事の方がより重要だと思う。女性は夫の仕事の悩みに (答えるために) 役立つような知識を持つために高等教育は必要。また、経済的に夫を助けるために仕事をする必要もある (マリム・ナワールNo.8理科系クラス マレー人女子, 父 公務員 スタンダード6, 母 主婦 非教育)。

また、マリム・ナワールには、学業成績や経済的な状況が十分整わないために進学できない生徒も多い。

男子は、試験の結果によっては仕事をしないといけなくなることもあるだろうが、進学した方がいい。責任が重いから。女性が高等教育を受けるのも男性と同じでとても賛成。よい生活ができ成功できる(マリム・ナワール No96. 文系2クラス マレー人女子, 父 運転手(ゴミ) 前期中等教育 母 主婦 初等教育)。

男性が、卒業後高等教育を受けるのはとても賛成。家族を養う責任があるから絶対に必要。試験の結果によっては働かないといけないのは仕方ないけれど。女性の場合は、賛成。男性の方が女性よりも高い教育を受ける方がいいに決まっている(マリム・ナワール No.85. 文系2クラス, 父 自営業(ladang) 前期中等教育, 母 主婦(工場で働いた経験あり) 初等教育)。

このように、2つの学校のマレー人女子に対して、フォーム・ファイブあるいはシックスを修了した後に、高等教育に進学するか就職するかについて尋ねた結果を示してきた。比較的理由を明確に述べた回答者の答えから、キーワードを抽出し表3に示した。表3から、マレー人女子は、男女共に高等教育に進学することを大事と思うが、その理由は多様である。男性は家庭の長や主として、子どもの模範となるべく、高い知識を得て高い職業的地位に就くことが期待されているために、高等教育に進学することが躊躇なく好まれる。その反面、女性は、子育てを賢くこなしたり、男性の補助的役割を担ったりするために、高等教育を受けるとよいと考えられる。しかしながら、女性の学歴は男性のそれを超えるものであってはならない。また、就職に対する考え方も男女で異なる。男性は高等教

育の延長上に、高い給料や地位を得るような職業的成功があるのに対して、女性は高等教育を受けても、その後の職業的成功は念頭に置かれていない。父親や夫の経済状況が低い場合に、女性が職業に就くのである。

表3 マレー人女子の高等教育観

学校	男性	女性
T	○家庭の長	—
T	○子の火付け役	○男性の補助
T	○家庭の長・子の模範	○子どもに近い存在
T	◎宗教的責任	○—
T	◎給料が高くなる	○賢い子育て
T	○子どもの勉強に影響	—
T	○キャリアにつながる	○—
T	分からない	○子育て
T	○高い職業	○イメージがいい
T	○地位の高い職業	—
T	◎高い職業	◎家族・夫・職業による
T	○子の教育・家族養う	○男性と同等の教育
T	—	○職業機会の広がり
MN	○家の主・的確な判断 高い職業機会	—
T	○家庭の長・子の教育	○高学歴すぎると 母親役割に差し支える
T	◎—	○高学歴すぎると 夫を見つけにくい
T	◎子の教育	○—
MN	×職業より重要	○夫の仕事の悩みに 対応できる知識
MN	◎責任重い・試験次第	◎よい生活が可能に
MN	◎家族養う	○男性より下がよい

出所：調査結果から、筆者作成。Tはタツヤ、MNはマリム・ナワールを示す。

## ②性役割観の多様性

マレー人女子にとって、高等教育進学の意味が男女別に異なり、その相違には性役割観が作用していることが分かってきた。ところで、マレー人女子は、いわゆる伝統的・固定的性役割観に対して、どのような考えを持っているのであろうか。第1次調査において、性役割観をめぐる2つの設問（設問17「女性は主婦として家庭で働く一方男性は家の外で働くのに適している」、設問18「女性はいかに高い教育を受けても最後は台所に」）に対する考えを尋ねたところ、マレー人女子の中で、性役割観に反対する割合は全体の62.3%（設問17）、65.4%（設問18）に上った。これらの結果は、華人女子が反対した割合（それぞれ69%、75%）よりも幾分低いですが、前出の成人を対象としたアリフィン（1995）の調査と比べると、反対する割合がやや高い。

まず、性役割に反対する意見を挙げる。

私の責任 (tanggungjawab) は、仕事にある。家族の世話をするのは女性の幸せであるけれども、女性が家事をしなければいけないということはない (タッヤ No.21 理系クラスマレー女子、父 教師 後期中等教育、母 看護婦 後期中等)。

次のマレー人女子生徒の意見は、高学歴の女性が家事にのみ専心することに強く反対し、高い学歴を得たので、それを生かすような職業に就くことが望ましいと考える意見である。

女性が主婦にだけなるのは全く賛成しない。女性がキャリアを得るのはよい。「高学歴の女性が最後には台所に」という言い伝えみたいな状況は今はない (タッヤ No.45 会計クラス、父

教師 大学学位 (学部)、母教師 ディプロマ)°。

ただし、女性が主婦になるか否かは夫の経済状況に左右される。次の意見は、女性が教育を受けることへのコスト意識が働いている点でも特徴的である。

夫がお金持ちであれば、主婦になることも可能なので (性役割観に) 賛成するを選んだ。(でも) 女性が台所で働かなければならないのは昔 (zaman dulu) の話で、今は変化している。教育レベルが高いのに主婦になってしまうと、それまでに費やしたコストを捨ててしまうことになる (マリム・ナワールNo.54 文系1クラス マレー人女子、父 公務員 前期中等教育、母 主婦 非教育)。

同様に、生徒の性役割に対する意識は、経済状況に左右されるという回答も多い。男性に経済力がない場合や、最近の物価の上昇など社会・経済状況の変化に応じて女性も働く必要がある場合に、女性が家事にのみ従事することに反対する。

男性の経済 (的な力) が十分でなければ、女性も働いた方がいいと思う。だから女性の役割観には賛成しない (タッヤ No.54. 会計クラス、父 警官 後期中等教育、母 主婦 後期中等教育)<sup>10</sup>。

上述の回答とは逆に、結婚した相手に経済的な余裕があれば、女性が主婦になることを望むという意見もある。結婚相手の経済力に応じて女性が主婦になろうとする考えは、たとえば次のようなものである。

(前略) 家庭の状況にもよるから、余裕があれば、台所に入るのに大賛成。社会問題は母親が外で働くことが原因で起きると考えられているので、(母親は) 働かない方がいいのかもしれない



い。(タッヤ No.32. 理科系クラス マレー人女子, 父 講師 PhD, 母 主婦 後期中等教育)。

あるいは, 出産した後に仕事よりも子育てに専念することを望む声も多い。それは, 夫の意見に従うためであったり<sup>11</sup>, 祖父母や親から受け継がれてきた考え方を守ろうとするためであったりする。

昔, 女性にとって教育は重要ではなかったが, 今は重要だと思う。だから, 高等教育を受けた女性が台所にとというのは賛成しない。でも子どもがいたら仕事をやめるのがいい。私の母親がそうしたように, 子どもの世話をするほうを好む (タッヤ No.6 理科系クラス マレー女子, 父 教師 大学学位, 母 主婦 後期中等学校)<sup>12</sup>。

女性役割を守ることは義務であると考える生徒の中にも, 働くことと性役割の遵守とは別の問題で, 共に矛盾なく行うことができると考える中間の意見もある。

女性が家事だけをする必要は必ずしもない。家事をすることは女性にとって重要だが, 必ずしも仕事をやめる必要はない (マリム・ナワール, No.8 理科系クラス マレー人女子, 父 公務員 スタンダード6, 母 主婦 非教育)。

性役割観を守るのは義務 (wajib)。でも高等教育後に働くことだってできる (マリム・ナワール No.85. 文系2クラス マレー人女子, 父 自営業 (ladang) 前期中等教育, 母 主婦 (工場で働いたこともある) 初等教育)。

ただし, 女性が働くために家事が疎かになった場合, 家族が協力して家事をする必要がある。次の意見は, また家庭の経済状況を離れ, よりマクロ的に考え, 国家の経済発展を助けるために, 女性が働くことの意味をとらえた点で興味深い<sup>13</sup>。

性役割観には賛成しない。私たち (kita) の経済のためにも, 女性も仕事をしなければならない。家事は両方がすればいい。両親もそうしていたが, 両方が料理をしなければならない (タッヤ No.36. 理科系クラス マレー人女子, 父 校長 ディプロマ 母 教師 ディプロマ)。

第1次調査でマレー人の女子生徒たちが, 性役割観に否定的な意見を選ぶ傾向が強かった。だが第2次面接調査で, 実際に意見を聞くと, より複雑かつ多様な考え方があったことが分かった。最後に, 調査結果から, マレー人ムスリマの性役割観と高等教育進学にこめられた意味について分析したい。

### 3. マレー人ムスリマの性役割観と高等教育進学の意味

本稿では, 進路形成過程におけるマレー人ムスリマにとっての高等教育の意味を, 性役割観を手がかりとして, 実証的に検討してきた。本稿で示した調査結果は, 3次に渡る調査の内, 第2次調査の調査結果の一部である。

まず, マレー人が高等教育進学を選ぶ際に, 男性 (父親・夫) として女性 (母親・妻) として賢くあろうとする目的が, 十分に含まれていた。第1次調査では, 性役割観を問う設問に反対したマレー人女子生徒たちが, 賛成した女子生徒たちの数を上回っていた。ところが, 第2次調査では, マレー人女子生徒たちから, 「家事 (kerja di rumah)」や「育児 (jaga anak-anak)」, 「夫の手助けをすること (bantu suami)」など, 女性役割を肯定する声と否定する声の両方が挙がった。

すなわち, マレー人ムスリマは, 男女は平等な教育を受け, 自ら職業を選ぶことができ

るという考えを持ちながらも、それら女性を選ぶべき進路は、家庭における役割遂行を阻まない程度や範囲であるべきだと考えるのである。特に、進学校で宗教学校であるタッヤの女子生徒が、医者や弁護士、あるいは会計士など、マレーシア社会で地位が高いとみなされる職業を志向し、固定的・伝統的性役割には反対する一方で「家庭の役割に負担がかからない程度に働きたい」と答える点が特徴的であった。現代のマレー人ムスリマに、固定的・伝統的性役割観に対して従順な考えや態度を見て取ることができる。しかしながら、マレー人ムスリマは、結婚したとしても主婦になるだけではなく、仕事を続けることもできると考えており、昔とは異なり、性役割に従順である必要はないと口を揃える。マレー人ムスリマが性役割観を尊重しながら、女性の可能性は、妻として母としての役割だけではなく、職業機会などを得ることにもあるという「両立意識」を持ち合わせていることは特筆に値しよう。ただし、出産した後はできる限り子育てを優先したいと考えるムスリマも少なくなかった。さらに、イスラームの教えに従い、性役割を全うすることが大事と考える生徒がいる一方で<sup>14</sup>、イスラームよりも家庭の（主に父親・夫の）経済状況や本人の成績が、あらゆる要因に先んじて進路を決定する際に作用する。後者の場合、経済的に豊かであれば専業主婦になることも許されるが、大部分は自らも稼ぎ手として働いて、家計を助ける必要に迫られるのである。これらマレー人ムスリマの性役割をめぐる価値観の多様性や、多様性に起因する高等教育選択の意味には、イスラームの教えに基づく性役割

観や家族の経済状況など様々な要因が関わりあっている。したがって、冒頭で述べたような固定的・伝統的役割を守ろうとする価値観や態度が、女性の教育機会を狭めることと単純に連動しているとは言えないのである。

#### おわりに

マレーシアの中等学校の生徒を対象とする実地調査によって、アリフィン（1995）が成人男女を対象として実施した調査の補足を試みた。アリフィンによる調査の結果に示された、マレー人ムスリマが固定的・伝統的性役割観を重んじる傾向が強いことを確認する一方で、単純に固定的・伝統的役割観に賛成するのではないことが明らかになった。それゆえ性役割観が常に教育機会を得る上で阻害要因とはなりえないと結論づけられた。

さて、生徒の言説から、イスラームの教えに基づく性役割観や態度は、親や祖父母から伝達されることが分かる。あるいは、マレーシアという国家が女性に二重の役割を背負わせる政策を推進してきたことも、少なからず後期中等学校の生徒たちの考えに影響を及ぼしてきた。それに対して、女性は伝達される性役割を受容した上で進路選択したり、性役割に拒否反応を示しつつ進路選択したりするであろう。

このような新たな仮説をもとにして、別稿では、第3次追跡調査（2003年12月～2004年1月実施）の結果から、マレーシアにおける女性の進路形成の過程と構造を華人女性との国内比較研究によって検討し、マレーシアの進路形成モデルを構築したい<sup>15</sup>。

## 参考文献

- Ariffin, Jamilah (1992), *Women and Development in Malaysia*, Selangor Darul Ehsan : Pelanduk Publications.
- Ariffin, Jamilah (1994), *Reviewing Malaysian Women's Status*, Kuala Lumpur : Population Studies Unit, Faculty of Economics and Administration, University of Malaya.
- Ariffin, Jamilah (1995), *Gender Attitudes towards Malaysian Women's Appropriate Roles : Findings from a Survey Peninsular Malaysia*, A Research Report submitted to HAWA.
- Ahmad, Aminah (1993), *Status of the Education of Women in Malaysia*, Report Prepared for the Education of Women in Asia Project sponsored by Asian Development Bank.
- Aminah, Ahmad (1998), *Country Briefing Paper : Women in Malaysia*, Paper prepared for Asian Development Bank.
- Carolyn M. Elliott and Gail. P. Kelly (1980), Introduction : Perspectives on the Education of Women in Third World Nations, *Comparative Education Review*, 24, June 1980. The University of Chicago Press : Chicago.
- 服部美奈 (2001) 『インドネシアの近代女子教育 - イスラム改革運動のなかの女性 - 』勁草書房。
- Gail. P. Kelly and Sheila Slaughter (eds.) (1991), *Women's Higher Education in Comparative Perspective*, Kluwer Academic Publishers.
- Golnar Mehran (2003), The Paradox of Tradition and Modernity in Female Education in the Islamic Republic of Iran, *Comparative Education Review*, vol.47.no.3., The University of Chicago Press: Chicago.
- 桜井啓子 (2002) 「イランにおける女子教育：イスラム化政策の影響」第三世界の教育研究会発表レジュメ (於：国立教育政策研究所), 2002年1月26日。
- Sekolah Raja Perempuan Taayah, *Sejarah Perkembangan SEKOLAH RAJA PEREMPUAN TAAYAH 40tahun 1960-2000* (40周年タヤヤ女王学校発展史)".
- Sekolah Raja Perempuan Taayah, *BAKTI 2001*.
- SMK Malim Nawar, *Sri Mawar 2001 Julid 12*.
- 杉村美紀 (2000) 『マレーシアの教育政策とマイノリティ・国民統合のなかの華人学校 - 』東京大学出版会。
- from a Survey Peninsular Malaysia. と A Study of the Effects of the Development Process on Malaysian Women and Their Outlook towards Modernization and Their Role in Development. である。
- 2 調査地域は、当初全マレーシアを予定していたが、財政的都合によりサバ・サラワクは行わず、半島マレーシアのみを対象とした。まず、(i) 質問紙調査によって、a. プロフィール (Demographic Information), b. 家庭内の性別役割分業 (Findings on the Domestic Division of Labour), c. 社会によって定義された女性の役割 (Women's Roles as Defined by Society), d. ジェンダー観 (Gender Perception), e. 一般的な問題 (General Issues) が質問紙で問われる。次に、サンプル選定、インタビューの実施を経た。そしてデータの最終版として、女性の地位、ジェンダー観、性別役割分業構成という3部から構成される調査報告書が、女性局 (Jabatan Hal Ehwal Wanita/HAWA) に提出された。
- 3 アリフィンによる調査結果は、年齢別に回答の傾向が分析される。男女それぞれ年齢別に結果の差異が見られるが、概して女性の方がそのパターンがはっきりしている。女性はより年齢の高い層が、性役割に賛成する傾向が強いと説明する一方、男性は女性ほど年齢別の傾向が明らかではない。しかしながら男性は特に25歳以下の最若年層で、女性の役割に対して伝統的なスタンスをとる傾向が強いと予測できるが当該年齢層のサンプル数はわずか22人であることから、この結論は再度検討される必要があろう [Ariffin 1995, 83-86]。
- 4 エスニック集団の多様性や、選択的・差別的な (preferential) 教育政策の背景を論じた後、1988・1989年のマレーシア家族生活調査 (Malaysian Family Life Survey) のデータから、エスニック・社会階級とジェンダーの格差について分析した (Pong, Suet Ling (1995), Access to Education in Peninsular Malaysia : ethnicity, social class and gender, British Comparative and International Education Society, *Compare*, Vol.25, No.3, pp.239-252.)。
- 5 これらをそれぞれ「エスニック・トラック」と「ジェンダー・トラック」と呼んだ。第1次調査までの結果については、鴨川明子 (2003), 「後期中等教育段階における生徒の性役割観と進路選択—マレーシア・ペラ州の実地調査より—」日本比較教育学会『比較教育学研究』第29号, pp.152-169. 参照のこと。
- 6 小都市に位置する共学で華人学校の <sup>ペイユエン</sup>Pei Yuan 国民型中等学校 (Sekolah Menengah Jenis Kebang-

## 註

- 1 調査の原題は、各々 Gender Attitudes towards Malaysian Women's Appropriate Roles : Findings

- saan : SMJK) での面接調査の結果は別稿にゆずることとする。
- 7 筆者が2001年9月に進路指導カウンセラーに対して実施した予備的な面接調査を通じて、高等教育アスピレーションは男女共に高いが、その理由・動機は男女で異なるという仮設的な結論に至った。「男子は冒険的で活動的である」ため、社会的・経済的な成功物語を企図して卒業後就職する。それに対して、女子の中でもとりわけマレー人女子は、高等教育卒業後に何らかの職業的な成功を望むというよりは、教師に従順で机の前にじっと座って学ぶことが、より「女性らしい」姿と考えるために、就職ではなく高等教育に進むケースが多い。詳しくは、鴨川明子 (2002) 「マレーシアにおける後期中等教育卒業者の進路選択に関する研究—進路指導カウンセラーの面接調査から—」早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊第9号-2, pp.95-105. を参照されたい。
- 8 タッヤに通う生徒の父親の教育を見ると、後期中等教育を受けた父親が多いが、ディプロマ (19人, 19.6%), 大学学位 (13人, 13.4%), 修士・博士学位 (4人, 4.1%) を取得した父親も少なからずいる。マリム・ナワールに通う生徒の父親は、前期中等教育を受けた父親が最も多く、後期中等教育を受けた父親は4分の1いるが、タッヤに比して教育レベルが低い。さらに母親の教育は、父親以上に差が顕著である。タッヤに通う生徒の母親は、父親同様に後期中等教育を受けた母親が多く、ディプロマ (17人, 17.5%), 大学学位 (9人, 9.3%) を持つ母親もいる。マリム・ナワールでは、スタンダード6までの教育を受けた母親が最も多く、41.7% (40人) である。マリム・ナワールの生徒で、母親の教育について知らないために回答できない生徒が若干いた。
- 9 引用した生徒の声の他に、「女性は何でもしたいことができるので、性役割観には賛成しない。特に高学歴の女性が…にはまったく賛成しない (タッヤNo.61.会計クラス父 地方公務員 前期中等教育, 母 主婦 前期中等教育)」や「男女の役割分担には『賛成しない』。「女性が高等教育を受けた後は働かなくてはならない。もちろんそれが義務だ。だから必ずしも『台所に入らなくてもいい』 (タッヤ No.87, 宗教クラス, 父 peneroka 後期中等教育, 母 主婦 後期中等教育)」などの声も挙がった。
- 10 「性役割観には反対。生活 (kehidupan) や、経済面 (kewangan・ekonomi) から考えても女性も働いた方がいい (タッヤNo.69. 宗教クラス, 父 退職 後期中等教育, 母 裁縫職人 小学6年)」 「最近は何が高くなっているの女性も働いた方がいいかもしれない。だから性役割観に対しては分からない (タッヤ No.97 宗教クラス, 父 Pembantu Tadbir 大学学位, 母 經理 後期中等教育)。」
- 11 「性役割観には『賛成しない』。でももし男性が仕事をやめろと言うのならやめるが、まずは議論をする (タッヤ No.73. 宗教クラス マレー人女子, 父 教師 大学学位 母 教師 ディプロマ)。」
- 12 「性役割観に対しては、必ずしも賛成とは言えない。女性は仕事もできる。ただ、子どもを育てることはしなければならぬ。『最後は台所に…』という質問は、夫も料理をすることができるので賛成しない (タッヤ No.67. 宗教クラス マレー人女子, 父 公衆衛生補助員 後期中等教育, 母 主婦 後期中等教育)。」
- 13 女性が専業主婦ではなく家庭の外で働くために、家事を男女で分担する必要があると答える生徒もいた。「女性が外で働くのは問題ない。協力して (persatuan) 家事をするのがいい (タッヤ No.25 理科系クラス マレー人女子, 父 建設会社経営, ディプロマ 母 行政補助)。」
- 14 「必ず『高学歴の女性が台所に』に入らなければならないわけではないと思う。(でも) 自分の場合、宗教に従わなきゃだめかな (terpaksa ikut agama) (タッヤ No.58. 会計クラス, 父 不明 後期中等教育, 母無記入, 初等教育)。」
- 15 なお、本研究で構築するモデルは、目指すべき模範という意味でのモデルというよりは、現実をできるだけ忠実に抽象化する試みという意味でのモデルを示す。